

カトリック

広島教区報

No. 128

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区の動き
伊藤助祭叙階式
司祭人事・地区便り・海峡からの風
青少年・ひと粒

一〜三画
四〜五画
六画
七〜十一画
十二画

第三回「教区代表者会議」の

恵みに感謝して

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

主の復活のお喜びを申し上げ

皆さんの新年度の歩みの上に

平和の恵みをお祈りいたします

召命の恵みへの感謝

復活祭に先立って、広島教区では去る三月二十一日、伊藤正広神学生が助祭叙階の恵みを受け（詳細は七ページ）、司祭叙階に向



白浜司教（左）と伊藤新助祭（右）

けて最終段階の準備の一年をスタートされました。また、星野倫淳神学生が三月二十七日、祭壇奉仕者に選任される式を受け、神学科三年に進級しました。そして、韓国出身の新たな神学生志願者であるペトロ口鄭鍾一（チョン・ジョンイル）さんが、神学院の準備課程に入る恵みをいただきました。司祭・修道者の召命の促進のために祈り、活動を続けてくださっている皆さん、とくに「召命学校」や支援団体の「一粒会」の皆さんに、改めて感謝したいと思います。司祭・修道者の高齢化と召命の減少という困難の中に

主のご復活おめでとうございます

教区本部事務局

野中 泉 神父

（教区外・中央協議会）

原田豊己 神父

（留字・韓国）

尹 兌榮 神父

平和の使徒推進本部

瀧井英昭 神父

広島司教館

深堀升治 神父

豊田尚臣 神父

斎藤眞仁 神父

広島地区

萩薮代治 神父

山口島根地区

山口道晴 神父

岡山鳥取地区

（地区長） 西江和司 神父

広島中央協議会（岡山・向原・東広島・鞆町・呉）

（職町・向原主任） 荻薮代治 神父

（職町・向原助任） 三宅仁孝 神父

（職町・職町助任） パヴァン 神父

（東広島主任） トウアン 神父

（鞆町主任） アルベルト・ベツラ 神父

（呉主任） バート 神父

西広島協議会

（観音町・三篠・廿日市・祇園・可部）

（観音町主任） 瀧井英昭 神父

（三篠主任） 福田誠二 神父

（廿日市主任） 金 楡 神父

（祇園・可部主任） 李 相源 神父

（祇園助任） 久保裕己 神父

備後協議会（三原・尾道・福山）

（三原主任） フレデリック 神父

（福山・尾道主任） 猪口大記 神父

（福山・尾道助任） 朴 根培 神父

（三次主任） アルナルド 神父

山口協議会（山口・地福・防府・萩）

（山口・地福主任） アルフレド 神父

（山口助任） カンガス 神父

（山口助任） 外川直見 神父

（防府主任） ヴィタリ 神父

（防府助任） グエン・ヴァン・トアン 神父

（萩主任） アレックス 神父

下関協議会（細江・彦島・長府）

（細江・彦島主任） 作道崇三 神父

（細江・彦島助任） デイン 神父

（長府主任） 百瀬文晃 神父

下関労働教育センター

（所長） 中井 淳 神父

（協力） 林 尚志 神父

（主任） 片柳弘史 神父

（協力） 西山和男 神父

（協力） アルテリョ 神父

（小野田老人ホームチャペル） 三喜田虎太 神父

岩徳協議会（岩国・光・柳井・徳山・下松）

（岩国主任） 金 起煥 神父

（光・柳井主任） 肥塚修司 神父

（徳山・下松主任） 山口道晴 神父

伯耆協議会（松江・出雲・米子・境港）

（松江主任） 野中 泉 神父

（出雲主任） 金 洪錫 神父

（米子・境港主任） ロルダン 神父

石見協議会（津和野・益田・浜田）

（津和野主任） 山根敏身 神父

（益田・浜田主任） 大西史 神父

広島教区長 白浜 満 司教
司教総代理 荻薮代治 神父

岡山協議会（岡山・ロザリオ・岡山南・玉野・津山）

（岡山主任） 服部大介 神父

（岡山助任） アルベルト・ジャルト 神父

（日本語研修・岡山主任） 朴 鐘錫 神父

（岡山南主任） ロイ 神父

（岡山南助任） テエ 神父

（玉野主任） 沈 相潤 神父

（津山主任） ジョン 神父

倉敷協議会（笠岡・倉敷・玉島・水島）

（倉敷・玉島・水島主任） レイモンド 神父

（笠岡主任） ブルニ 神父

鳥取協議会（鳥取・倉吉）

（鳥取主任） 西江和司 神父

（倉吉主任） 野寄一夫 神父

（鳥取助任） シルベスタ 神父

イエスス会 庚午修道院

（主任） 塚田健統 神父

（イエスス会） プルハスタント 神父

（ウエイマヤヤ） ヴエーミヤヤ 神父

（ロサド） 修道士

（高山） 親 神父

（塩谷） 策 神父

（曾根） 忠明 神父

（池尻） 広幸 神父

（裏辻） 洋一 神父

（清水） 弘 神父

（葉袋） 勝士 修道士

（モンテレー） 修道士

（牧田） 真一 修道士

（愛徳） 修道士会

あつて、復活して生きておられるキリストの招きに、勇気をもって応える青年の方々が、現代の教会に求められています。キリストに代わって、皆さんの周りにおられる青年の方々への声かけや同伴を、これからも、どうかよろしくお願いいたします。

感謝 教区代表者会議への

広島教区は、今年九月十九日「教区の日」から来年九月十八日「教区の日」までの一年間、教区創立百周年を祝うことになりました。この教区創立百周年という節目を迎えるにあたり、その準備として百周年後の教区の歩みとともに考えるために、わたしたちは



鄭神学生 (中)、星野神学生 (左)、吉田神学生 (右)

よって教区シノドスの歩みを支えてくださった方々、とくに「教区シノドス準備事務局」

昨年十一月二十三日と今年二月二十三日の二会期にわたって、第三回「教区代表者会議」（教区シノドス）を、オンラインという新しい形式で開催することができました。まず、この教区シノドスの歩みを支え導いてくださったいくつしみ深い神様に、広島教区の皆様とともに、心からの賛美と感謝をおさげしたいと思えます。

そして、三年前の二〇一九年十月に、わたしが今回の教区シノドスの開催を宣言してから、アンケート調査による準備を開始し、それらをまとめ五つの分科会を設置し、オンラインによって開催を実現し、貴重な提言を答申してくださいました。皆さんの祈りや多くの作業に

のスタッフに、心から御礼申し上げます。広島教区に着任して、今年の九月十九日「教区の日」でちょうど六年になるわたしにとって、教区創立百周年後の歩みを考えるために、皆さんと「ともに歩む」貴重な体験となり、神から大きな光と助けを与えていただきました。本当に有り難うございました。

司教教書 教区代表者会議後の

この教区シノドスの恵みを教区の皆さんと共有し、この恵みに応えていくための指標となるように、司教教書「ともに歩むあなたかさのある教会をめざそう」をまとめました。この教区報とともに、その要約版となるリーフレットを皆さんのもとにお届けします。このリーフレットの中で、第三回目の教区シノドスを受けて、教区創立百周年後の福音宣教に向かう新たなチャレンジの方向性（ビジョン）を示しています。教区の皆さんには、この方



「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

「聞いて悟りなさい。口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである」（マタイ15:10-11）。

数年前から個々の信者や教会において、宣教方法の一つにソーシャル・ネットワークキング・サービス（SNS）を活用しようとして試みられています。SNSの良い面は、時間的・距離的・人数の制約なしにマス・コミュニケーションの一つとして、多くの人へ言葉で情報を伝えることができる点です。

反面、従来のマスコミ（代表例：テレビなど）と違い、SNSは表現の自由度が高い特性から自分の主観的な意見や感情面をほぼ制約なしに多くの人へさらけ出すことができる特徴もあります。そのため、ある人のSNSに対しコメント等で自分の主観的意見や感情的な反応が発端になり、結果、非難や誹謗中傷が集中する「炎上」という現象がみられます。ほかに主観的意見によりその対象者に心的被害や名誉毀損など、人権問題になることもあります。これらは悪意なしに、もしくは無意識に行われることがあり、しかも

これらはSNSを利用しているすべての人に起こりえることなのです。では宣教活動やキリスト者個人としてSNSを利用するにあたり、私たちは何に気をつけると良いでしょうか。私が一番気をつけると良いと思うことは「負の感情」をそのままSNSで語らないことです。聖書は教えています。「悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしてそしりなどを捨てて、一切の悪意と一緒に捨てなさい。互いに親切にし、隣れみの心で接し」（エフェソ4:29-32）なさいと。神さまは「そうせんといいんのんじゃけんの」と呼びかけていますから、わたしたちは「そうでがんです！（アーメン）」と心えていきませんか。

（職町教会 竹内 秀晃）

向性のもとに一致し、ともに喜びをもって福音を伝える教会に成長して行きますように、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

なお、教区シノドス後の司教教書の全文は、教区のホームページに掲載しています。その要約版であるリーフレットの内容をよりよく理解するために、ご活用いただければ幸いです。

また、平和の使徒推進本部の傘下にある「教区シノドス準備事務局」を発展的に解消して、新たに設置する「シノドス対応調整チーム」が、今回の教区シノドスからの提言（「10のテーマと30のチャレンジ」）の重要度や優先度を識別して、立案化の作業を進めて行きます。この作業のため

に、オンラインを活用した今回の五つの分科会のさまざまなゆるやかに継続し、開かれた自由な分かち合いの場・意見交換の場を広げる一つの手段として、「ネットひろば」やその拡大会議となる

「教区ひろば」を開設します。「シノドス対応調整チーム」からの呼びかけに応えて、可能な範囲でこの「ネットひろば」や「教区ひろば」への参加を検討していただければ幸いです。

地区・協働体・小教区の活動への展開

ここで一つ留意していただきたいことがあります。



広島教区の皆様に配布されたシノドスリーフレット

ここで、この点について、皆さんのご理解とご協力を

教区シノドスは、おもに教区のレベルにおける宣教司牧の目標や新たな優先課題を検討するために開催され、その提言を受けた司教教書の内容も、その大部分が教区のレベルでのチャレンジにかかわるものです。地区・協働体・小教区・修道院などの各共同体にかかわる事柄は、多くあります。そのため、教区シノドス後の司教教書に示されている、教区全体の方向性（ビジョン）を共有しながら、今後、どのように地区・協働体・小教区・修道院などの各共同体の活動へと展開して行けるのかという課題が残されています。どうか、この点について、皆さんのご理解とご協力を

二〇二二年度「社会へのチャレンジ」の三年目

これまで広島教区では、宣教司牧のテーマが三年毎に設定され、二〇二〇年四月～二〇二三年三月までは「社会へのチャレンジ」という目標が打ち出されています。そして「いのち・環境」・「平和」という

副題が一年ごとに設けられて、これに合わせたチャレンジが続けられてきました。二〇二二年度は「平和」がサブ・テーマとなっています。

新年度が始まる前に、わたしたちはロシア軍によるウクライナ侵攻という戦争を目の当たりにして、大きな衝撃を受けました。このたび、国際連合の常任理事国であり、核兵器保有国であるロシアの非合理的な戦争を、対話によって阻止することの困難さが浮き彫りになりました。そして、世界の国々がその人口や領土の広さ、軍事力や経済力など

の違いに妨げられることなく、基本的人権と共通善という普遍的な理念に根ざす真摯な対話に基づいて、世界平和を構築しようとする人類の努力がひどく裏切られた悲しい体験となりました。

このような悲痛な出来事を引き起こした原因は複雑に絡み合っており、容易に単純化できないのですが、「口から出て来るものは、心から出て来るもので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、……、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。これが人を汚す」（マタイ15・18～20）というイエス様の言葉が思い起こされます。わたしたち信者にとって、まことの平和の構築は、神につながるわたしたちの心の清さに左右されるものであり、その心の清さがより多くの人々の間に広がっていくことが肝要です。またイエス様は、次のように教えておられます。「心の清い人々は、幸いである。その人たちは神を見る。平和を

実現する人々は、幸いである



る。その人たちは神の子と
呼ばれる」(マタイ5・8
〜9)。また、イエス様の
次の言葉が思い起こしたい
と思います。「わたしはぶ
どうの木、あなたがたはそ
の枝である。人がわたしに
つながっており、わたしも
その人につながっていれ
ば、その人は豊かに実を結
ぶ。わたしを離れては、あ
なたがたは何もできないか
らである」(ヨハネ15・
5)。――「平和の使徒と
なろう」という目標を、教
区固有の召命と位置づけて
いるわたしたち広島教区
は、「平和」という観点か
ら「社会へのチャレンジ」
について考え、行動する結
びの年(二〇二二年度)に
あたって、まず、まことの
平和の源泉であるキリスト
につながることを、また同時
に、キリストがわたしたち
につながっていることに目
を向けることを大切にしま
いと思います。そして、わ
たしたちは、第三回「教区
代表者会議」の提言の要約
である「10のテーマと30の
チャレンジ」の中で、「平
和」に関連する二つのテー

マと六つのチャレンジに、
この二〇二二年度から取り
組んで行くよい機会を与え
られているように思いま
す。スタートした二〇二二
年度が「平和な年」となり
ますよう、「平和の元后」
である聖母マリアの取り次
ぎを願いながら、この一年
の歩みを神様におささげし
ていきたいと思います。ど
うぞ、よろしくお願いいた
します。

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇二〇教区代表者会議 (第二会期) 開催】

去る二月二十三日、昨年
十一月二十三日の第一会期
開催後、三ヶ月を経て、
二〇二〇教区代表者会議
(第二会期) が開催され
た。

前回同様、ZOOMを用
いたインターネット上での
リモート会議形式におい
て、百三十名余りの代議
員・オブザーバーが、それ
ぞれの場所からパソコンや
スマホを使用して接続し、



会議に参加した。

今回の第二会期において

は、コロナ禍でなければ、
一同がカテドラルに集い、
派遣ミサを行うことも計画
できたが、叶わない状況と
なり、しかし、祈りの雰囲気
が欲しいとの要望にに応え
るため、全体を「ことばの
祭儀」を意識したプログラ
ムとした。

当日の受付(接続開始)

は、余裕をもって開会一時
間前から開始したが、前回
同様のリモート会議であつ
たことも功を奏した様子
で、すべての出席予定者が
予定通り接続を済ませ、一
同、リラックスした雰囲気
で十一時からの開会を迎え
た。

インターネットを使った
シノドスアンケートフォーム

開会式
は、瀧井神
父(平和の
使徒推進本
部長)の祈
り、荻神父
(司教総代
理)の開会
あいさつ、
聖書朗読が
行われた。

開会式

後、午前の部は「世界シノ
ドスの準備のための質問」
について、各小教区からの
回答状況報告、今後のスケ
ジュールと広島教区として
の対応(教区としての回答
のまとめ方)について説明
があり、結びの祈りの後、
各自、昼食のための休憩に
入った。

午後の部は、祈りと聖書

朗読に続き、中村倫明 長
崎大司教の着座式に出席し
て、この第二会期に出席で
きなかつた白浜司教のビデ
オメッセージ「第三回教区
代表者会議」の提言を受け
た「司教教書(案)」につ
いて、事前に収録された映
像が配信され、一同で説明

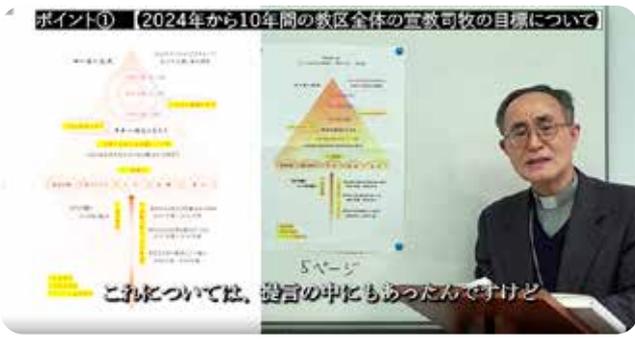
を聞いた。
白浜司教のビデオメッセー
ジは、次の三つのことにつ
いて、互いに分かち合つて
欲しいとの要望であった。

- ① 教区創立百周年後の
二〇二四年から十年間
の教区全体の宣教司牧
の目標について。
- ② 教区シノドスの提言を
具体化し、立案化する
「シノドス対応調整
チーム」について。
- ③ 提言内容を整理し要約
した「10のテーマと30
のチャレンジ」につい
て。

続いて白浜司教の要望に
応える形で、ZOOMのブ
レイクアウトルーム(参加
者を少人数に分けてミー
ティングする機能)を使つ
て五つのグループに分かれ
て約七十分間の分かち合い
を行った。その後、全体
ミーティングに戻り、各グ
ループから分かち合いの報
告があつた。なお、分かち
合いの詳細(議事録)は、
後日、白浜司教に提出され
た。

閉会式は「ことばの祭儀」を締めくくるため、「福音宣教」「平和」「多文化共生」「協働」「養成」に沿った五つの共同祈願、結びの祈り、瀧井神父の閉会あいさつ、派遣の祝福が行われ、約五時間にわたる第二会期を無事に終えた。

この度の「二〇二〇教区代表者会議」の成果は、復活の主日に公布する「司教教書『ともに歩むあたたかさのある教会を目指そう』」で示される。教区の皆さんには熟読して頂き、



司教教書(案)の説明を行う、白浜司教(ZOOM会議の様子)

百周年後の広島教区の歩むべき方向性をご理解頂くと共に、ご支援、ご協力をお願いします。

コロナ禍での昨年の

「第一会期」と今回の

「第二会期」を成功裏

に終えることができた

ことは、参加頂いた代

議員・オブザーバー

の方々、そして代議員

の方々を支援し協力さ

れた教区民のすべての

方々の賜物と感謝しま

す。何より聖霊の働き

によるものと実感でき

ました。

重ねまして

「二〇二〇教区代表者

会議」にご協力くだ

さったすべての教区の

皆さんに心から感謝申

し上げます。

【世界シノドス準備のための広島教区のまとめについて】

平和の使徒推進本部の事務局メンバーで構成された世界シノドス準備チーム(責任司祭は瀧井神父)は、それぞれの小教区

や修道会からの回答(約五十件)を受け、現在、教区としての回答のまとめを作成中です。現在の状況についてお知らせします。

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

- ① 「二〇二〇教区代表者会議」の開催について
- ② 五つの提言「福音宣教」「平和」「多文化共生」「協働」「養成」と具体的提言について
- ③ 世界シノドス準備のための質問との関連性について
- ④ 全体まとめ

教区としての回答のまとめ方は、全体を次の四つの構成とします。

- ① 「二〇二〇教区代表者会議」の開催について
- ② 五つの提言「福音宣教」「平和」「多文化共生」「協働」「養成」と具体的提言について

「目指そう」の具体的内容を中心として総合的にまとめをしていきます。司教協議会への提出は、六月四日までですが、教区としての回答(A4用紙×五枚以内)に併せて、皆さんからの回答をまとめた一覧と、司教教書を参考資料として提出する予定です。

その後は司教協議会において八月十五日ごろまでに日本全体のまとめが作成され、九月から半年間、アジア(大陸レベル)での識別とまとめが行われることになっていきます。更に半年の最終的なまとめを経て二〇二三年十月、ローマで「世界代表司教会議(世界シノドス)」第十六回通常総会が開催される予定です。

世界シノドス準備のための具体的な十の質問に対しては、皆さんからの回答を中心に五つの提言に関連づけてまとめしていきます。最後に結びとして、「司教教書『ともに歩むあたたかさのある教会を

この度の意見収集に際し、ご協力くださいました小教区や修道会のすべての皆さんに深く感謝します。

助祭叙階の恵み

ヨゼフ 伊藤 正広 助祭

三月二十日(月・祝)、世界平和記念聖堂(カトリック幟町教会)で、白浜満司教司式により、ヨゼフ伊藤正広神学生の助祭叙階式が執り行われた。

聖堂には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が十分なされた中、新助祭の出身教会である翠町教会の信徒をはじめ、広島教区内の司祭、修道者、信徒が集まった。また、叙階式に参列できない人のために、式の様子はYouTubeで配信された。

感謝!

ヨゼフ 伊藤 正広 新助祭

この度、多くの方々に支えられ、この日を迎えることが出来ました。お礼を伝えたい方が多すぎて、それだけで文章が終わってしまっています。白浜司教様、養成担当神父様方、神学院の松浦院長様はじめ、関係者の方々。広島教区司祭団の皆様、一粒会の皆様、翠町教会のアルベルト神父様、シスター廣田、



按手を受ける伊藤新助祭 (右)



白浜司教 (左)、伊藤新助祭 (右)

信徒会長様はじめ、すべての方々。駆け出しのころから私を育ててくださった、シスター荒谷と、三登さん、そして入門講座の勉強仲間の皆様。祈りでいつも支えてくださっている修道会の皆様。同じ道を歩む、全国の神学生の皆さん。叙階式の準備に携わってくくださった、幟町教会の事務スタッフの皆様はじめ、信徒の皆様と、同じ敷地内にある、パウロ書院の皆様。広島教区の小教区の皆様。あと家族。

今数えただけでも、どれだけの数の「愛」によって、私は生かされていたことかと考えさせられます。自分の内面を振り返って、「感謝」がないところには幸せはない、ということは今改めて強く思います。人生は不条理な事だらけですが、「感謝」こそ、幸せのもとであり、環境だけ整っても、なぜか心には何かが足りないのです。そういう

意味では「態度」しだいなので、案外、人生は平等なのかもしれません。私は、「人生の意味がよくわからないまま、人生が終わってなるものか」との



ともにミサを捧げた司祭団、侍者

信念をなぜか強く持つていたため、カトリック教会と出会い、気がつくくと、司祭を目指していました。

幸せになるにはどうすればいいのか、なかなか教えてくれる人は見つかりません。いっしょに、本当の幸せを見つけましょう。おそらく、それが人生の目的でしょう。

「いかに楽しいことでしょうか。主に感謝をささげること」(詩編92:2)

長崎教区で大司教着座式、仙台教区で司教叙階式

長崎大司教区では、ペトロ中村倫明大司教の着座式が二月二十三日(水)浦上司教座聖堂のミサの中で執り行われた。高見三明名誉大司教、駐日教皇大使レオ・ボツカルディ大司教、司教・司祭団、修道者、信徒など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、三百人を限定して行われた。この様子は、参加できない方々と同じ時間を共有するためにインターネットを通じて



長崎大司教区着座式の様子
中村倫明大司教(右)



按手を受けるガクタン司教(左)

てライブ配信された。また、仙台教区では、ガクタン・エドガル司教の叙階式が三月十九日(土)元寺小路教会大聖堂のミサの中で執り行われた。参加者は百五十人、インターネットを通じてライブ配信された。

聖書通読写経キャンペーン 完了者紹介 (敬称略)

新約聖書写経を完了された方

No.024 竹本 順子 幟町教会

新約・旧約書写経を完了された方

No.007 熊谷美登里 廿日市教会

広島教区 司祭人事異動 (新任地 ↑ 前任地)

*異動時期はいずれも復活祭明けから

《ミラノ外国宣教会》
アルナルド神父
三次主任

山口道晴神父
徳山・下松主任・山口島根地区長 ↑ 鳥取主任

《イエズス会》

↑尾道・三次主任

野中泉神父

ヴィタリ神父

パヴァン神父

松江主任・教区本部事務局長兼務 ↑ 三篠主任・教区本部事務局長兼務

防府主任 ↑ 幟町協力

幟町・向原助任

鳥取主任・岡山鳥取地区長 ↑ 玉野主任

アルティリヨ神父

↑教区外

西江和司神父

宇部協力 ↑ 長府主任

《フィリピン宣教会》

服部大介神父

山根敏身神父

ジョン神父

岡山主任 ↑ 岡山・岡山南・津山主任

津和野主任 ↑ 津和野・

津山主任 ↑ 津山助任

猪口大記神父

浜田・益田主任

トルダン神父

福山・尾道主任

恩地 誠神父

米子主任 ↑ 福山助任

尹 兌榮神父

サバティカル ↑ 防府主任

《釜山教区》

留學(韓国・教会法大学院) ↑ 米子主任

アルフレド神父

沈 相潤神父

福山主任 ↑ 福山主任

山口主任 ↑ 教区外

玉野主任 ↑ 岡山協力

ロイ神父

百瀬文晃神父

岡山在任・日本語研修

岡山西南主任 ↑ 水島主任

長府主任 ↑ 山口主任

《教区》

大西勇史神父

ヴァン トアン神父

原田豊己神父

濱田・益田主任 ↑ 津和野・浜田・益田助任

防府助任 ↑ 教区外

中央協議会

福田誠二神父

《淳心会》

《ソン・ロック教区》

三篠主任 ↑ 松江主任

レイモンド神父

テエ神父(ベトナム人司牧)

根培神父

倉敷・玉島・水島主任

岡山南在任 ↑ ベトナム

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島主任

↑徳山・下松主任

徳山・下松助任

シルベスタ神父

《教区》

↑徳山・下松主任

倉敷・玉島・水島助任

中央協議会

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島助任

原田豊己神父

三篠主任 ↑ 松江主任

倉敷・玉島・水島助任

中央協議会

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島助任

中央協議会

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島助任

中央協議会

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島助任

中央協議会

福山・尾道助任

↑倉敷・玉島助任

中央協議会

福山・尾道助任

聖心の布教姉妹会 岡山清輝橋修道院の閉鎖

感謝

本会は、一九二九年（昭和四年）広島教区第二代教区長ヨハネス・ロス司教様の招聘により津和野修道院を皮切りに聖心の布教姉妹会の広島教区内での奉仕を継続してまいりましたが、津和野修道院の乙女峠・津和野教会の奉仕を残して、二〇二二年三月末日岡山清輝橋修道院を閉鎖させていただきましたこととなりました。

一九二〇年、秋田の地に創立され、一九三一年、岡山弓之町（現天神町）と津和野の地に芽生え、事業所とともに岡山の地に本部修道院・修練院が移されたこともありました。

岡山大空襲では、岡山カトリック教会とともに七棟六百二十三坪の建物は全焼しながらも、乳児・幼児・学童は全員難を逃れ、学童は市内浜の信徒宅で、幼児・乳児はノートルダム清心の寄宿舎をお借りして、

たくさんの方の善意に包まれての日々があったようです。

岡山天神町にはじまり津和野・岡山清輝橋・米子・呉・出雲・浜田の各教会の主任神父様のもとで、カテキスタとして宣教のお手伝いをさせていただきました。またそれぞれの地で、当時の社会の要望に応じて、多種に亘って社会福祉事業・教育事業を使徒職としてまいりました。戦後まだ福祉行政の乏しい中、当時の姉妹の苦労はたいへんであったと聞かされております。でもそれらをお助けくださるたくさんの方々の出合いは事業とともに宣教の大切な出合いとなっていたようです。

年月の変遷高齢化社会のもと、福祉行政も手厚いものとなってまいりました。専門職の方々により、多くの制度が作られ、人々の要望に添えてくれる昨今です。

幸い、私も姉妹も高齢化により、これからの日々は創立の精神である聖心の愛を伝え貧しい人、苦しむ

人々に寄り添い続けることが出来そうですように歩みを見直し励んでまいりたいと思います。

この長い年月の間、歴代の教区長様、神父様方、そして信徒の皆様。それぞれの使徒職の場でお助け下さいました数知れない多くの方のお力をいただきながら、今日まで歩んで参りました。岡山最後の幼稚園

も白浜司教様の寛大なお計らいで、教区の神父様におゆだねすることが出来ました。本当にありがとうございました。平和の使徒としての広島教区のますますのご発展と、ゆたかなお恵みをお祈り申し上げます。

2022年5月3日 「乙女峠まつり」について



津和野・乙女峠の証し人37名の列聖調査の第1段階（列福）のために、皆様のお祈りと種々のご支援に、心から感謝を申し上げます。

昨年は、緊急事態宣言の期間中でしたので、「乙女峠まつり」を中止にさせていただきました。今年も新型コロナウイルス感染症の終息の目処が立たない中で、感染防止対策のために「乙女峠まつり」を自主参加とし、津和野教会の信者と有志で記念ミサを捧げたいと思います。今年の司式はヨセフ高見三明名誉大司教（長崎教区）をお願いしています。乙女峠でのミサは広島教区の公式ホームページにおいて動画配信させていただく予定です。心を合わせて乙女峠証し人の遺徳を偲び、ご一緒に祈りを捧げていただければ幸いです。よろしく申し上げます。

5月2日（月）前夜祭の講話

乙女峠証し人の列福調査について
講 師 平林冬樹 神父（広島教区列福調査委員会委員）
◆時間19：00～20：30 ◆場所 幼花園ホール（津和野教会横）

5月3日（火・祝）乙女峠でのミサ

司式・説教 高見 三明 名誉大司教（長崎教区）
◆時間 11：00～
動画配信：カトリック広島教区ホームページ

<http://hiroshima.catholic.jp>

（ミサ前の津和野教会から乙女峠への聖母行列はおこないません。）

津和野カトリック教会



岡山聖園幼稚園・岡山清輝橋修道院

**中国ブロック
高校生大会
コロナ禍、ハイブリッド開催**

去る三月十九日(土)に第五十六回中国ブロックカトリック高校生大会(中ブロック)を開催することが出来ました。

皆さまご存知の通り中ブロックは、同じ釜の飯を食い、学び、分かち合い、祈りをささげる三泊四日の教区の伝統行事で、なんとと言っても高校生自ら準備や運営をしていく、ということも特色でした。

しかし、このコロナ禍によって一昨年は中止、昨年



中国ブロック高校生大会 オフラインメンバー
世界平和記念聖堂

は三地区それぞれに高校生を集めてそれらをオンラインで繋げるという形になっていました。さらに中ブロックを体験している学年がいなくなり準備や運営方法を継承していくこと自体が難しくなりました。

そのような困難の中で、それでも中ブロックを絶やしたくない、続けていきたいという思いから、リーダー達と準備をし、テーマを「この指とまれ!ここから始める新たな中ブロック」とし、半日ではありましたが行いました。

当日はオンライン参加三名、リーダー、参加者を

合わせて三十数名でした。(この中には、コロナ禍によって中ブロックの開催が叶わなかった今の大学二年生までの参加者も三名含まれていました。)
レクリエーション、被曝直後の司祭や修道者にスポットを

あてたドキュメンタリー「わが命つきるとも」鑑賞と分かち合い、それにちなんだ場所などを巡りお題をクリアしてくるグループミッション、ミサ、プレゼント交換などをしました。互いを受け入れあい、あつという間に仲良くなっ

ていく彼らの「つながり力」に驚かされるとともに、不信や恐れで戦争まで起こってしまうこの愚かな時代に必要なのは、自らを開き、他者に向かって飛び込んでいけるこの力だと感動しました。

すでに参加者の多くから「泊まりでやりたい!」と

うれしい声がたくさん聞かれています。来年は広島教区百周年イヤーにもあたる大切な年です。なんとか彼らの願いを叶えることが出来るようリーダー一同、知恵を尽くして参ります。教区報をご覧のみなさま、どうか、教区の青少年のため、また、それを支えるリーダーのために、お祈りください。よろしくお祈り致します。

**二〇二二年司祭・修道者の
プラチナ・ダイヤモンド・金祝・銀祝**

◆プラチナ祝七十周年◆

《援助修道会》

Sr.谷口ヒサエ 一九五二年 五月三日 初誓願

◆ダイヤモンド祝六十周年◆

《イエズス会》

Fr.三喜田虎太 一九六二年 三月十八日 叙階

《援助マリア修道会》福山修道院

Sr.春日 撮子 一九六二年 五月三十一日 初誓願

Sr.勝部 卿子 一九六二年 五月三十一日 初誓願

《ナミュール・ノートルダム修道女会》東広島修道院

Sr.星島 啓子 一九六二年 二月二日 初誓願

◆金祝五十周年◆

《イエズス会》

Fr.池尻 広幸 一九七二年 三月十八日 叙階

Fr.塩谷 恵策 一九七二年 三月十八日 叙階

Fr.ハンス・ヴェーマイヤー 一九七二年 三月十八日 叙階

《広島教区》光教会・柳井教会

Fr.肥塚 倅司 一九七二年 十一月三日 叙階

《福音の光修道会》広島修道院

Sr.平 節美 一九七二年 六月九日 初誓願

《聖パウロ女子修道会》広島修道院

Sr.村上 道子 一九七二年 一月二十五日 初誓願

《聖マリア在俗会》

小野寺 恭子 一九七二年 三月二十五日 誓願宣立

◆銀祝二十五周年◆

《広島教区》岡山教会

Fr.服部 大介 一九九七年 三月二十日 叙階

地区便り

岡山鳥取地区

※すべての、み魂(命)を輝かせたい!

「遺骨の混じる沖縄南部土砂の辺野古基地埋立反対声明書」を政府へ提出するよう岡山市議会へ陳情。沖縄教区長が以前、「沖縄への平和巡礼もいいですが、本土霞ヶ関で、して欲しい」と述べられた事が記憶に。昨夏、日本山妙法寺の武田上人からも熱い依頼。岡山市では政府に楯突く声明書には全議員が賛同しないと採択されない。数度、会派代表や脈のある議員に説明。個人的には同じ考えだが会派の賛同が必要との返事。反対議員が数人いたが、遺族会代表の賛同を得られた事(岡山鳥取の兵士犠牲者は二千三百九十一人)、陳情内容が犠牲者のみたまの尊厳・遺骨への人道上の配慮・ご遺族の想いを中心とした結果、全員一致で採択。驚き!顧

みると、日頃ホームレス支援を市と協働して実践している事が共感を呼び、賛意への基盤にあったと感じました。

岡山宗教者九条の会(岡山地区平和推進チーム協働団体)

山口島根地区

※新しい教会をつくる(宇部・北若山・高千帆教会の再編検討)

これからの宇部・小野田協働体をどのように司牧したらよいかを検討するため、白浜司教様は昨春秋、宇部・小野田協働体の各教会、修道会、幼稚園の代表者を宇部教会に集め、意見を聴取されました。その上で司教様は、今後、宇部・小野田協働体に複数の司祭を送ることが困難であること、まだ余力があるうちに再編を行っておくのが好ましいことなどから、宇部・小野田協働体の三教会を、各聖堂は宣教拠点として残しつつ、宇部教会を中心として一つの小教区に統合するという方針を示されました。

海峡からの風 63

下関労働教育センターだより

二月十二日、私の人生を変えた一人、同い年の大倉純子さんが帰天した。

彼女は三十年ほど前、一時下関労働教育センターのスタッフとして勤め、下請け工場の労働問題や様々な社会問題・国際問題に取り組み、下関でもしつかりと足跡を残した。旭川のアイヌ記念館からゲストを招き、「イラムカラプテ」と言うイベントを行い、仲間たちも出演して劇を上演したことも思い出される。

その後福岡県に移り住み、ジュビリー2000やチェルノブイリ支援、フェアトレード関連の事業などに関わって、二〇〇七年家族と共にアイルランドに引っ越した。アイルランドからもセンターで印刷発行している下関の市民活動の機関誌「海」に連載してくれ、島国の中でぬくぬくと暮らし

ている自分とは違う目線で鋭く社会の抱える問題を切り取って書き綴ってくれた。

一方でアイルランドと日本の文化交流にも取り組み、アイルランド出身の小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の作品をアイルランドの言語、ゲール語と英語の対訳の書籍を作ったりもしている。

そして私の人生を大きく変えたのは、二〇〇八年の



在りし日の純子さん(左二番目)を囲んで下関労働教育センタースタッフ

ケニアの大統領選挙の後の大暴動でこどもたちの目の前で大人たちが殺し合う状況に心痛めてネットなどを通じてアドボカシー的行動を呼びかけていた私の様子を見た彼女が、ケニアからのゲストのイベントを福岡・下関辺りでやるので「下関で受けて(受ける!)」とのメッセージをくれた事。それがケニア・マゴソスクールとの出会い。

それからケニア、アフリカへどっぷりとハマって、マゴソスクールを支える会の会長としての現在に至る訳である。

そんな多才で強烈な彼女の早逝は悲しく悔しい。安らかに眠っている場合じゃないだろ、天国からもメッセージを送り続けてくれよな。(大城 研司)

た。そこで、各々の教会で話し合いを行い、三教会統合にむけて話を進めていくこととなりました。

大きな道筋は決まりましたが、具現化していくためにはどんな問題、課題が出てくるのか想像さえつきません。新しい時代に合った宣教のため、「みんなで新しい教会をつくる」。ワクワクするミッションに、力を合わせて進んでいきたいと思えます。

(宇部教会 藤中義久)

広島地区

*平和アピール1981記念行事

毎年二月に行われる『平和アピール1981』記念行事。広島地区の今年のテーマは『ヒロシマと世界をつなぐ』。新型コロナ感染症対策のため、企画していた講演会は、平和の使徒推進本部チャンネルのYouTube配信となった。

ナビゲーターは、援助修道会のシスター小野島照子。「戦争は人間の仕業です」。ヒロシマから世界へ



シスター小野島のYouTube動画

発信した聖ヨハネ・パウロ二世の平和アピールを解説します。

(予習編「平和アピールを読む」。2019教皇フランシスコの「【平和のつどい】を振り返る」編と続きます。) <http://www.hiroshima-diocese.net/2022/02/26/post-2275/>

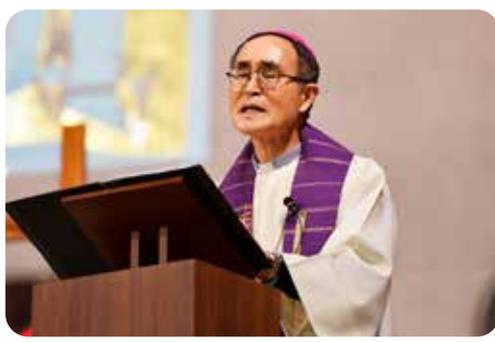


* "Remember Peace: 祈りと音楽による平和を願う集い"

教皇フランシスコは、二月二十三日(水)の一般謁

見において、ウクライナの情勢を憂慮して、三月二日(灰の水曜日)を「平和のための祈りと断食の日」とするよう全世界に呼びかけられました。この呼びかけに応えるために、三月二日十三時から広島教区とNPO法人ANT-Hiroshima共催で世界平和記念聖堂会場に、「Remember Peace: 祈りと音楽による平和を願う集い」が開催されました。

聖堂には約八十人が集い、鐘にあわせ黙とうを捧げて始まりました。白浜司教は戦争が早く終結するようメッセージを語り、「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバ



白浜司教



コバレンコさん(左) 集会の終了後の記者会見の様子

クシャ」と訴えられました。また、クラシックギター奏者の上垣内寿光さんとケーナ奏者の岩川光さんも参加し、祈りのうちに音楽を捧げました。

集いに参加したエリザベト音大講師でキエフ出身のオレクサンドル・コバレンコさんは、集いの終わりに行われた記者会見で「平和が戻りますように」「広島からも食料や物資など援助してほしい」と訴えていました。

伯雲ブロック

*永井隆博士祈念ミサと講演会

二〇二一年十一月

二十三日(火)に伯雲協働体で毎年行っている行事「永井隆博士祈念ミサと講演会」を島根県雲南市三刀屋町の永井記念館で開催しました。二〇二〇年はコロナが発生のため開催することができませんでしたが、二〇二一年は規模を小さくして新築された永井記念館での開催です。ちょうど広島教区代表者会議の日と開催日が重なったため教区内の司祭の出席がかなわなく、東京カトリック新学院教授、サレジオ会司祭の阿部仲麻呂神父様の司式と講演(コロナのため短時間)でした。

講演は『母性愛について』心に響くお話でした。



阿部仲麻呂神父(左)

青少年の活動

「オンライン

召命学校」初開催

「繋がっている」ことを何とか伝えたい。こんな思いから召命学校十代クラスのオンライン開催となり、三月十九日、初めての試み

ではありましたが予想以上（およそ十五名以上）の子どもたちの参加に嬉しくなりました。祈りと自己紹介に始ま

り、司教様による動画メッセージ参加や分かち合い等、短い時間ではありましたがキリストによって結ばれた私たちの「きずな」は



ミラノ会のパヴァンです！

職町教会・ミラノ外国宣教会
パヴァン神父

イエスは言われた「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」。(マルコ16・15) これは復活したイエスから弟子たちへの命令です。洗礼を受けた全ての人に対しての呼びかけです。この命令を受けて、ミラノ会の宣教師も、復活したイエスの福音を伝えるために遠くの国々へ行き、インドにもやってきました。私が生まれ育った教会もミラノ会の宣教師のお世話になりました。

みなさん、初めまして。私はミラノ会のパヴァンです。

カトリックの家族の中でカトリックの信仰を養われまし

た。シスターの運営する学校に通い、インドがヒンズー教

の強い国にもかかわらず、私はカトリックの環境の中で育

ちました。親類にシスターや神父もいたこともあって、自

然と司祭へのあこがれが芽生えました。宣教師の生活がど

んなものか具体的にはわかりませんでしたが、教会のミラ

ノ会の宣教師たちを見ているうちに宣教師になりたいとい

う望みがわきました。この望みが湧いた時からいつもわた

しとともにあったのは、聖書のことば「ただで受けたのだ

からただで与えなさい」で

す。心の中にあつた聖人はコ

ルベ神父です。日本に来て、

コルベ神父が日本にとつてと

ても大きな存在だと知つて、うれしくなりました。私たち

が気づかなくても神さまのみ手が働いているのだと実感し

たからです。助祭の時「日本に行つたらどうですか？」と

聞かれました。想像もしてい

なかつたことなので、びつくりしてただ「日本に行きま

す」と答えましたが、それを聞いた指導者はわたしのこと

を良く知っていましたし、ミラノ会総長も日本での宣教の

長い方でしたので、その方たちがそう言うならと信頼して

答えたのです。

インドで叙階を受けて数か

月後、日本にやってきました。それがなんと教皇様の来

日の前日だったのです。おかげで教皇様の東京でのミサに

も参加することができました。最初のクリスマスは広島



子どもたちへ動画でメッセージを送った、白浜司教

久保裕己神父

(祇園教会)

世界的なパンデミックでさえ乗り越えられる、そう確信した時間となりました。コロナの不安から二年もの間、実施できない召命学校ですがいつも「キリストのきずな」が私たちを結び付けてくれます。

二〇二二年度こそは実施できることを願いながら、皆様のご理解と祈りを宜しくお願いいたします。

ロシアによるウクライナ侵略。武力に訴えるのではなく平和的な解決はなかったのか。祈りと支援、自分は何ができるだろうか。(み)

